

# 所弓便

第28号

## 昇格・昇段

令和4年6月から11月までに昇格・昇段された皆さんです。おめでとうございます。

五段	宮嶋重明	田中明子	中村徳海
四段	北澤明子		
三段	榎本光記	山川 元	
二段	星川快枝	坂本和俊	仲丸実里
初段	中村勝俊	三上玲子	橋本夕夏
	佐藤和江	松村清美	中田昌吾

## 【会長挨拶】

石川 淳子

11月に入り寒さが一段と厳しくなってきました。今年も残すところ、あと1ヶ月となりました。1年を振り返り、来年はどんな1年にしようかと考えている方も多いのではないのでしょうか？

年が明けると1月末には北中の新道場の明け渡し予定となっており、2月ごろから新道場の利用が始められるように準備を進めております。

北中の弓道場には武道館弓道場にはない、射場の奥行きがあります。冬に稽古するには大変嬉しい床暖房も設置されます。審査・射礼の練習に大変適している弓道場であるといえます。是非多くの会員の皆様に利用していただき、来年も審査・射会でより良い結果を修めていただきたいと思います。

体調には十分気を付けて、どうぞ良い年をお迎えください。

## ∞ 各部報告 ∞

(令和4年5月以降の主な出来事)

## 【全般】

### 会員数

11月末日現在の会員数は210名です。

### 新会員

令和4年5月～11月までに入会・再入会された皆さんです。(以下、敬称略)

藤澤陽子	阿部 修	鈴木秀敏	片倉紀子
一由俊三	森田有希	寺内智子	福井恵美子
元賣睦美	篠原信子	瀬賀邦夫	田中泰介
川口順子	池之上美奈緒	宮下文女	富澤麻美
須田ユカリ	富澤麻美	池田利明	高橋 綾
椎葉正美	三上泰史	鈴木瑞穂	新村 恵
湯浅美樹			

## 新道場建設関係

### 新道場建設委員会

本年2月9日に所沢市開発審査会を通過し、所沢市との「土地賃貸借契約書」について検討、協議を重ねました。

7月には所沢市、弓道連盟、設計事務所、工事業者との最終現地確認を行い、8月1日付で所沢市との土地賃貸借契約が締結されました。

また、(株)小金井設計との民間建設工事請負契約を締結し、市内北中運動場内に新道場の建設が正式に決まり、工事着工となりました。

今後は2023年1月末竣工(予定)、利用開始に向け、新道場開設委員会において具体的準備を進めていただいているところです。

### 新道場開設委員会

2022年7月31日 市役所立会にて新道場の敷地及びテニスコート駐車場整備範囲確認

- 8月1日 敷地借地覚書、工事請負契約締結
- 8月21日 新道場説明会開催
- 9月12日 建築確認申請確認済証取得
- 9月21日 工事の安全のため敷地四方をお清め
- 10月26日 棟上げに伴う四方固めのお清め、
- 10月27日 上棟





射場の屋根葺き工事状況 (11月5日撮影)



今後、外壁工事、内装工事、安土工事、太陽光発電工事(長州産業実施)等行い、来年1月末完成予定です。(杣山博文 記)

### 【事務局】

#### 【5月】

- 19日 弓道教本第1巻(補正増補版)受け取りの件、道場に掲示
- 21日 第28回新道場建設委員会打合せ
- 21日 第1回NPO理事会
- 29日 第29回新道場建設委員会打合せ
- 29日 令和4年度臨時部長会・臨時常任委員会

#### 【6月】

- 4日 第30回新道場建設委員会打合せ
- 4日 第2回NPO理事会
- 7日 令和4年臨時総会 招集通知の発送
- 19日 令和4年臨時総会開催
- 19日 第31回新道場建設委員会打合せ
- 28日 市役所訪問 教育総務部、スポーツ振興課との話し合い

#### 【7月】

- 3日 第32回新道場建設委員会打合せ
- 8日 北中運動場にて市との現地確認
- 12日 会費未納者宛て督促状送付につき総務部に依頼
- 30日 第33回新道場建設委員会打合せ

#### 【8月】

- 7日 第2回部長会
- 13日 第2回常任委員会

#### 【9月】

- 21日 シティマラソン役員の協力依頼掲示
- 30日 シティマラソン役員(7名)、スポーツ振興課に報告

#### 【10月】

- 1日 令和4年度臨時部長会
- 20日 「令和4年度所沢市スポーツ協会優秀選手賞・優秀団体賞推薦の件」掲示

### 【経理部】

- ・各月の会計処理、報告書の作成。
- ・令和4年度10月までの会費納入実績197名。
- ・立て替え金の精算担当：
  - 11月～1月：川端
  - 2月～4月：石毛
- ・少額の精算は経理部全員(中西、杣山、小林、川端、石毛)が対応します。

### 【指導部】

#### 【5月～9月】

5月21日から春の初心者弓道教室を開催しました。コロナ禍のため、募集は10名でしたが14名の応募があり、14名で始めました。入会は10名でした。7月から水曜研修会と土曜講習会を再開しました。

#### 【10月】

- ・弓道教室：  
秋の弓道教室(シンコースポーツ主催)を開催しました。(9/24～10/29 毎土曜日 13:00～16:30)全6回。20名で始め入会は12名です。

#### 【11月】

11月から12月までフォローアップを土曜日の午後1時から3時まで行います。

## 【競技部】

### 《競技部》

#### 【6月】

26日 シンコースポーツ後援射会 参加者 37名  
 優勝：下田徹、2位：飯尾弘、3位：粕谷吉一  
 4位：清住洋恵、5位：中村徳海、  
 6位：坂川隆人、7位：関口二郎、  
 8位：廣瀬雅孝、9位：三好啓子、  
 10位：小山等  
 飛び賞： 関口研二・森下珠美・中村康代  
 石川淳子・池田大介・土井恵美子  
 小泉恭子・相澤俊彦・奥富季乃・  
 佐々木美桜

#### 【7月】

### 《競技部》

24日 月例射会 参加者 35名  
 ・二段以下 優勝：中田昌吾、2位：相澤俊彦、  
 3位：山川 元  
 ・三・四段 優勝：中村徳海、2位：榎本光記  
 3位：植村亮子  
 ・五段以上 優勝：下田徹、2位：粕谷吉一  
 3位：坂川隆人

### 《外部射会結果》

2日 埼玉県弓道遠的選手権大会 参加者 9名  
 女子四段以下の部 2位 清住洋恵  
 男子五段以上の部 2位 飯尾 弘  
 9日 共済組合弓道大会 参加者 11名  
 団体準優勝：所沢③  
 飯野良平・豊田佳孝・大竹伸一  
 団体 3位：所沢①  
 廣川澄芳・澤田靖子・石川淳子  
 個人：四段以上 準優勝 廣川澄芳  
 個人：三段以下 優勝 飯野良平  
 10日 第21回明治神宮崇敬会全国弓道大会  
 個人 四段・五段の部：  
 5位： 関口研二  
 個人 三段以下の部：  
 4位： 関口純子  
 18日 令和4年度中西部親善射会 中止  
 24日 女子部弓道大会 中止

#### 【8月】

### 《競技部》

7日 月例射会 参加者 32名  
 優勝：三好啓子、2位：関口二郎  
 3位：中村徳海、4位：飯尾 弘  
 5位：清住洋恵

### 《外部射会結果》

14日 読売杯兼県体予選会兼寿射会 中止  
 県体出場チーム 関口研二・深見恵子・関口二郎

#### 【9月】

### 《競技部》

11日 市民弓道大会 中止

### 《外部射会結果》

10日 西部支部選手権 中止  
 25日 第35回総合スポーツ大会(弓道の部)  
 一般の部出場：  
 関口研二・深見恵子・関口二郎

#### 【10月】

### 《競技部》

23日 月例射会 参加者 27名  
 二段以下 優勝：田中泰介、2位：中田昌吾  
 3位：相澤俊彦  
 参四段 優勝：清住洋恵、2位：安江仁美  
 3位：山川 元  
 五段以上 優勝：宮嶋重明、2位三好啓子  
 3位：粕谷吉一

### 《外部射会結果》

15日 関東実業団大会(通信) 参加者 16名  
 女子団体戦優勝： 所沢市役所Aチーム  
 安江仁美・田中明子・石川淳子・  
 増田裕子・松寄恭子  
 女子個人戦 3位： 澤田靖子

#### 【11月】

### 《外部射会結果》

13日 青少年三道大会 参加者 90名  
 ・小中学生の部  
 団体優勝：スポ少A  
 佐々木麻帆・本多未英・佐々木美桜  
 準優勝：スポ少C  
 仲丸正悟・秋田桂吾  
 3位：スポ少B  
 吉田真・植村朱野・西田彩花  
 ・小中学生の部 個人  
 優勝：仲丸正悟、2位：本多未英、  
 3位：植村朱野、4位：佐々木麻帆  
 5位：西田彩花、6位：佐々木美桜  
 ・高校女子初級の部  
 優勝：大竹悠理 (豊岡高校：所弓連在籍)

## 【スポーツ少年団】

## ∞ 投 稿 ∞

## 【5月】

- ・スポ少練習：4回(市民武道館)
- ・21日～ スポ少初心者教室 8名参加

## 【6月】

- ・スポ少練習：4回(市民武道館)
- ・～23日 スポ少初心者教室 8名修了、6名入団

## 【7月】

- ・スポ少練習：3回(市民武道館)
- ・3日 保護者会総会
- ・18日 全日本少年少女武道錬成大会 (弓道)  
男子1チーム、女子2チーム参加 12名参加
- ・23日 第35回県民総合スポーツ大会  
(弓道中学の部)

於秩父第一弓道場 11名出場、  
女子団体2位 佐々木 麻帆、本多 未英、  
佐々木美桜  
女子団体3位 吉田 真、西田 彩花、  
西井 香央  
男子団体3位 仲丸 正悟、鈴木 航、  
朝倉 総  
女子個人3位 吉田 真

## 【8月】

- ・スポ少練習：3回 (市民武道館)

## 【9月】

- ・スポ少練習：3回 (市民武道館)

## 【10月】

- ・スポ少練習：5回 (市民武道館)
- ・16日 第10回所沢市弓道スポーツ少年団  
交流大会

於市民武道館 54名参加  
(秩父、三芳、所沢スポ少)  
上級の部 3位 鈴木 航、4位 本多 未英  
5位 佐々木 美桜

## 【11月】

- ・スポ少練習：3回 (市民武道館)
- ・13日 第62回所沢市青少年三道大会  
於市民武道館

(弓道の部) 12名参加  
(内18期4名はオープン参加)  
個人総合優勝 仲丸 正悟  
小中学生の部 団体優勝  
佐々木 麻帆、本多 未英、佐々木美桜  
団体2位 仲丸 正悟、秋田 桂吾  
団体3位 吉田 真、植村 朱野、西田 彩花  
個人優勝 仲丸 正悟、2位 本多 未英、  
3位 植村 朱野、4位 佐々木 麻帆  
5位 西田 彩花、6位 佐々木 美桜

## 五段受審顛末記

宮嶋重明

2022年8月14日、明治神宮中央道場にて行われた関東地域連合審査にて五段に合格する事が出来ました。

2013年6月、62歳で「初心者教室」の門を叩き、時の指導部長であった永島先生のご指導の下、初めて弓矢に触れてから9年、以来、我慢強く熱心にご指導頂いております先生方、諸先輩の皆様には心より御礼申し上げます。また、道場内外において充実した時間をお付き合いさせて頂いている多くの弓友の皆様にも深く御礼申し上げます。

この「所弓便28号」が発刊されているのは、11月頃かと思いますが、合格発表翌日から編集部の方の怒濤の(熱心な)寄稿依頼を頂き、この原稿は、審査終了から10日後ぐらいにキーを叩いておりますので、皆様の目に触れるときには遠い過去のことということをご考慮の上ご笑読下さい。

この度の審査は五段挑戦7回目で、年齢71の身としては少し気持ち的にも萎えかけており、この猛暑という悪条件の中でもあったので、「合格」は素直に喜ばしく、遠い昔、大学に受かったときより、ホッとしております。私にとって、五段は結構高い壁でしたが、先人の皆様が一人、二人と壁を越えて行かれるのを励みに挑戦してきました。私も、そういった一人になれば幸いです。

この度の審査結果の概要ですが、受審者数382名(欠席者数は不明)、合格者数は23名(6%)、内埼玉県連は3名(中部、県央、西部各1名)でした。いつもの明治神宮連合審査会ですと、中央道場2射場と、至誠館1射場で500名ぐらいの規模ですが、今回は中央道場のみでした。

そもそもこの時季の審査は、クソ暑くて、肌脱ぎを伴う審査としては、とても不適切な時期なので躊躇していたのですが、明治神宮という憧れの「弓の聖地」という魅力に負けて応募しました。審査受付担当の三好先生の毎回の懇切丁寧な審査ご案内メールにも暗黙のプレッシャーが有りましたが・・・

私にとって、審査にあたって、この暑さの中でどうやって「肌脱ぎ」を乗り越えるかが当面の課題でもありました。しかし、今回以前、審査の前に道場で肌脱ぎの稽古をしていた折、永島先生から「低段者で肌脱ぎで落ちた人はいないよ!」とアドバイス頂いたことを良いことに、今回は、肌脱ぎの稽古はほとんど無しで審査に臨みました。

余談が長くなりましたが、審査の四日前の稽古では、弦音は汚いし、中らないし、どうしたものか途方に暮れていたおり、平山先生から「手首の力を抜いて！」との一言を頂き、意識してやってみたところ、弦音、矢所が少し収まってきたように感じました。そしてその翌日、「手首の力を抜く」を肝に銘じて、やってみると、予想外に、弦音、矢所ともに安定し少し安堵しました。さらに審査前日入退場の稽古のためにと、草賀先生の土曜講習に参加しました。ここで、先生から「前腕を立てる」ようアドバイスを頂いたのですが、これをやってみると矢所が安定するような気になりました。

当日は、審査会場入館時刻が午後2時過ぎだったので、午前中に武道館に行き、前述「手首」と「前腕」の2点を注意して、6射ほど稽古しました。中りは4射で、まあ、こんなものかなという心境でした。家でゆっくり昼食を摂り、電車にて明治神宮に向かいました。

ここまではマイペースで淡々と事を運んだのですが、当日、指定入館時刻は14時10分、気温37℃、暑さまっただ中！汗をできるだけ抑えようと朝から、水分を極力抑えたのが裏目に出て、明治神宮への往路、地下鉄北参道駅の階段を上って地上に出たところで、気分が悪くなって、思わず木陰で久々の水分補給をした後、参道をゆっくり、ゆっくり中央道場に赴きました。初めて、いわゆるこれが「熱中症」なるものかと認識した次第です。

入館から招集がかかるまでの時間は30分ぐらい。びしょびしょの下着を脱ぎ着物に着替え、じっと静かに体調の回復を待つ間は、やっぱり今回は止めておけば良かったと絶望的な気分でした。ただ幸いしたのが、弱いながらも待合室に冷房が利いていたことでした。なんとか意識が正常に戻りました。

さて、本番です。会場は第2射場で、小休止の後の二立目で15時頃。3番の予定でしたが前に欠席者が一人出たため4人立ちの2番目となりました。大前はちゃきちゃきしたお婆様で、早く、「間」がないので少し焦りましたが、なんとか9歩3歩で無事、本座に着座しました。

さあ、問題の「肌脱ぎ」はここからです！当然、襦袢はもう汗びしょりです。少し経験のある方なら容易に想像できると思いますが、こんな状態ですると肩が出るはずがありません。遠山の金さんにも負けないぐらいの勢いで、必死に肘を張りなんとか脱げましたが襟がどう納まったか考える余裕もありません。思わず自身苦笑いが出てしまいました。もう、後は長年繰り返し稽古し

てきた射をするだけと開き直りました。

しかし、ここでまた一波乱。前の立ちは4人でした。落ちの弦音で大前に合わせて立ち上がったのですが、大前のお婆様はすぐ一步を踏み出さず二呼吸ほど間を置いて踏み出しました。この時、私は息合いより大前の動作（気配）を警戒していたので一步を追い越すことはしませんでした。3番以降の方がどうしたかは不明です。また、やってしまったかなと思いつつ、再度、開き直りました。しかし、この、動作を合わせた行為が正解か不正解か未だに不明です。

射本番、「弦調べ」、「篋調べ」の際 my 的（2 的）の真上に、幕に書かれた「至誠」の「誠」の文字がくっきり見えた事だけは鮮明に覚えています。

今までの審査では、とにかく「射法八節」をきちんと演じる事に拘り、要点を頭の中で唱えながら射を運行していましたが、今回はほとんどそこを意識する事無く、ただ二点、「手首の力を抜く」事、「前腕を立てる」事だけを意識して射を行ったような気がします。

甲矢的的中音もどこか遠くでしているような感じでした。過去の経験では甲矢が入ると、欲が出て乙矢に力みが出る場所ですが、それも無く、入った二本の矢所も全く覚えておりません。

無心と言えはかっこよいのですがただ「チョコちゃんに叱られる!？」ぐらいボーっとしていたようです。退場口を出たところで、控えて覗いていた次の受審者の知らないおじさんから「お見事です。」と声を掛けられてはっと我に返りました。

五段は、束っても合格しない例は沢山見えておりますので、期待半分と行ったところで帰路につきました。

合格発表は、2、3日後かなと思っておりましたが、凶らずも翌月曜日昼過ぎ、三好先生から「合格ですよ!」とのご連絡を頂きました。しかし、公表されていないので俄には信じられず、埼玉連ホームページ掲載を待っておりましたが、その直後掲載され安堵した次第です。

冒頭にも記載しましたが、この度の合格は本当に「ほっと」しました。最大の成果は妻の懐疑の視線（本人は何も考えていないと思いますが・・・）から解放される事かなと思います。

さて、今後ですが、勝手に、一段落を決め込んでおりますが、弛まず精進しようとは思っています。今後の課題としては、「息合い」の習得と恐れ多いのですが「軽妙な『離れ』」の会得を目指したいと考えています。

以上、たらたらと申し述べましたが締めとして、

以下に四段合格の際、所弓便 19 号に掲載させて頂いた拙文の一部分を全くそのまま再度、記載させて頂きます。

.....  
.....

私が初段に合格した際「所弓便」に寄稿させて頂いた文章のなかで本当に生意気なのですが、以下のように記載させて頂いておりました。

「今後も、中てることは二の次にし、「正しければ中る」「(但し、正しくなくても中る事がある事を戒めつつ)を信じて、「射法八節」に拘りつつ、私の憧れとする「威儀正しく、質実剛健、従容典雅」を目指して稽古を積んでいく所存ですので.....」

私自身、この考え方は今でも変わっていません。私の場合、弓に魅かれた理由は「凜然とした射の姿」であり、今後も「カッコよい(癖の無い)弓」を目指したいと思えます。

.....  
..... (所弓便 19 号掲載)

恥ずかしながら、弓を始めて9年、思想がほとんど進歩しておりません。

私、余技としてテニス、ボウリング、ゴルフ、マージャンなど結構、競い事、勝負事は大好きです。しかし、「弓」を介して他人と競うのは私の「弓道」に対して抱いている魅力とは少し違うという感覚を持っています。そのため、今後も、競技会で皆さんとご一緒する機会は少ないとは思いますが、楽しく稽古をご一緒頂けますよう宜しくお願い致します。

最後に、特に五段の審査に当たりまして、格別のご指導と激励を頂きました甲斐先生ならびに、時に厳しく、そしてまた時に厳しくご指導を頂きました平山先生に誌上をお借りして御礼申し上げます。

追伸：以上にて、寄稿しようと筆を置いたのですが、一週間後ぐらい、提出のため再読した折り、少し加筆したいと思うところがあり、弓道、若輩の身ですが、これからという方に何か参考になればと思い追記する次第です。

【妻手の「手首」の力を抜く事に関する考察】

○何故「手首」に力が入るのか？

1. 前腕の力で弦を引っ張ろうとする。  
(諸悪の根源！)
2. 弦の暴発が怖い。
3. 筈こぼれが怖い。
4. 弦を「捻れ」と教えられている。(磔の

帽子と人差し指の間の白い部分を「捻り革」と呼ぶので教えに間違いはなさそう！?)

○妻手の「手首」の力が抜けたとき期待出来る効果！

スムーズに離れる事によって以下の様な効果が期待出来る。

鋭い矢勢、きれいな矢飛び(矢筋)、「離れ」から「残身」に至る妻手の綺麗な納まり(直線的でワンピースが私の理想)

→当然の結果として「矢所が安定」する。

皆さんも多かれ少なかれ経験があると思えます。

○どうすれば、妻手の手首の力を抜くことが出来るか？

ここからは、私自身、今まで先生方から何度も何度もご指導頂いていて、頭では分かっている、実際には出来ていなかったことだと思います。先に述べた力が入る原因から考えます。

1. 筈こぼれ、暴発を防ぐためにまずなすべき事は、取懸けの際、「弦と弦溝を正しい位置にきちんとフィット」させ、円相によって生じる適度な「捻り」によって、帽子内の拇指の内側にそれを感じ取ることが大事だと思います。(先生方はこれを「懸口十文字」の重要性として教えて下さいました。)後は、この拇指のフィーリングを「打起し」、「大三」までしっかり維持し、その後は「弦枕」に任せます。
2. 「大三」で弦が妻手に巧く絡み合ったら、後は前腕を忘れ、右肘を真横に始動するのみです。

※などと、偉そうなことを書いた後、教本第一巻を見返したら、115Pに「妻手は上膊部(俗に二の腕という)の力を用い、右手先は弦にまかせ、右肘で引くこと。」と記載がありました。

僭越なことを申しあげましたが、この度のことで学んだことは、先生方のご指導や教本の教えとして頭では分かっている、中々、体現・体感出来ていないことが、ある日、ある事を切っ掛けに曲がりなりにも気付く事があるということです。

これからも、探究心をもって、稽古を楽しみたいと思えます。

## 「感謝」

### 田中明子

お陰様をもちまして、10月9日の埼玉県立武道館での審査にて、五段に認許頂きました。

コロナ禍の今日、平時以上の準備や配慮をして頂いた上で、審査を設けて下さったことに感謝申し上げます。そして、受審できた自分自身の環境にもまた、しみじみ感謝した当日の朝でした。

通常の審査のように、仲間と連れ立って行くことも叶わない心細さの中で、武道館前の大きな木が、私を出迎えてくれた感がありました。入館前の召集のため、しばらくその木を眺めているうちに、「木は、地上に伸びているのと同じだけの深さで、地中に根を張っている」という話を思い出しました。私もこんな風に、天高くすくと立てたらいいなあ、そんな会の姿でありたいなど、ぼんやりと思いました。

そして第一控えでは、自分の気をつける所を、頭の中で復唱していたら、前の立ちの方々の快音が響き、ふうと力が抜けて、落ち着くことが出来ました。

審査一か月前のこと。いつもご指導頂いている下田先生から、今の自分の課題を問われ、(たくさん有り過ぎて、言葉で伝えきれず)翌日、紙面で提出しました。改めて文面にすることで、今の自分の課題が整理されて見えてきました。あとは、それに向かって、ひたすら稽古を重ねるだけ。先生からも、その課題を中心に御指導頂けたので、どうすれば、自分の射が、今の自分の理想に近づくのか、実に僅かずつ、捉えられるようになったのかもしれない。当然のことながら、まだまだ不確かなことばかりですので、稽古を重ね、引き続き精進して参ります。

また、今更のことになりますが、常日頃の諸先生、諸先輩方、弓仲間には、射場に立つだけが稽古ではないと、その奥深さを教えて頂いています。そして私も、弓があつて良かったと思える弓道人生を歩みたいと思います。

今後とも、御指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

## 四段審査を終えて

### 北澤明子

令和4年6月19日に県立武道館での地方審査にて四段に合格することが出来ました。日々ご指導して下さる先生方や先輩方、共に稽古し励ましあえる弓友の皆様に感謝いたします。

途中から数えるのを止めてしまったほど四段審

査を受けてきました。受ける度に普段起こったことのない状況になり、毎回「今回はこの状況の対処の仕方を学ぶための審査だったんだわ」と、自分に言い聞かせて回を重ねてきました。

どの回にも共通していることは、冷静さを失ってしまい、上手く対処出来ていないということでした。

今回は、とにかく何が起きても動揺しないこと、特に甲矢が中っても「中っちゃった、どうしよう…」と考えず、中って当たり前くらいの気持ちを持つこと、「半眼」と「肘」を意識すること、これのみを心掛けて臨みました。

甲矢が中り、「いつものこと、中って当然よねえ」と言い聞かせながら弓倒しし坐る。「半眼、半眼」と何度も繰り返しつつ乙矢を6時に外し、「またやっちゃったあ…」と弓倒し。前日の平山先生の敷居の真ん中から退場することの言葉を忘れずに退場。すっかり退場時の肘の張りのことを忘れていました。

今回思ったことは、半眼を意識することで余計な情報が目に入らず、いつもより集中することが出来たように思いました。

まだまだ課題が多く長い道のりですが、どうぞこれからもご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

## 験がいい会場

### 前澤朋子

5月の日高の審査で参段の認許をいただくことが出来ました。

日頃より懇切丁寧なご指導をして下さった先生方、折々に励ましの言葉をかけて下さった諸先輩、また弓友のお陰だと感謝しております。

審査当日は比較的睡眠時間もとれ、しっかり朝食もとり余裕を持って会場に向かうことが出来ました。

駐車場でストレッチをし体をほぐしゴム弓を引く時間もありました。緊張が和らいだように感じました。

そして最後に成功した場面を思い浮かべることでも忘れずに会場に入りました。

日頃より注意されてる点は数多くありました。その中で特に二点ほどを念頭に置き精一杯堂々とやるだけと深呼吸をし息合い・目づかいに気をつけ入場しました。

4人立ちの落ちでした。その日はあまり動揺することなく落ち着いて引けました。束中でした、というか束ってました。(…が本音です)

今、私の出来ることは精一杯やり終えたという

気持ちで帰宅しました。

これからも次の目標に向かって精進していこう  
と思っております。  
今後ともご指導宜しくお願い致します。

### 三段

#### 山下翔司

2022年5月15日、日高アリーナ弓道場にて行  
われた第2回地方審査会にて、参段の認許を頂く  
ことが出来ました。奇跡的に初段からここまで  
ストレートでの合格です。

ご指導してくださった先生、先輩方に心より感謝  
いたします。

参段もできれば日高で、と考えていたので、  
審査受審に向けて、まずは申し込みと同時に筆記  
試験の答案作成です。

今回の設問は、「取り矢ついて説明しなさい」  
でした。  
教本を調べても書いてあるのは・・・たったの  
3行!?

これを一体どうやって答案用紙半分以上に膨らま  
せられるのだろうか・・・

練習の合間に先生、先輩方に聞いて回り、ゆがけ  
の種類や流派などでやり方、注意点などが異なる  
ことが分かり、知見が広がりました。  
この問題、当日いきなり出されたら解答に詰まっ  
て大ピンチだったに違いありません。

式段審査の時は、直前が海外出張+帰国隔離の  
ため直前3週間しか練習出来なかったのですが、  
今回は数ヶ月かけて準備をすることが出来ました。  
参段の審査基準として審査統一基準から抜粋する  
と「射形定まり、体配落ち着き、氣息整って、射術  
の運用法に従い、矢飛び直く、的中やや確実な者」  
とあります。

個人的な理解では、式段と違い、体配の息合い、  
目づかいなども評価対象とされ、一手のうち最低  
片方は的中を出しつつある程度弓返りも求められ  
る、という感じでしょうか。そして審査で引ける  
のはたったの2射、そのうち片方を中ててやっと  
土俵に上げられる、というつもりで、練習の最初の  
一手をいかにしっかりと引けるかを課題に取り組  
んでいきました。

が、どうしても中らない。なぜか最初の一手だけ  
的のはるか前に飛んでいく。  
そしてしばらく練習すると的の周辺に戻って  
くる・・・なぜなのか。

暗中模索の中、審査を一週間後に控えた月例射会  
で過去最低の記録を出してしまい、すっかり意気  
消沈してしまいましたが、  
射がだめでも、少しでも見栄えのいい行射が出来  
れば評価してもらえないかもしれないと開き直って、  
体配で細かな部分の修正を積み上げていきました。  
あとはただがむしゃらに追い込み練習の日々。  
前日最後の一手を束って切り上げ、望んだ審査当  
日。

今回は5人立ちの中、3番目での行射でした。  
勝手知ったる日高の弓道場、大前の方のリズムが  
よく、皆とても揃った入場になったと思います。  
大前、二的と連続的中して自分の番、普段通り  
を意識して、引き絞って、大して長くない会のあ  
と放った甲矢は的半分程離れた10時あたりに。  
あー、やっぱり前に行ってしまった・・・もう後が  
ない。  
それでも審査中に凹んではいけない。しっかり  
残心をとって乙矢に備える。

続いて乙矢、この矢は外せない。  
でもそれが頭をよぎるようでは集中できていない。  
負のイメージを振り払って立ち上がり、構え、  
的を見据えて打起こし、大三をとって大きく引き  
分け。自分の体が弓にどう働きかけて、弓からど  
んな力を受けているのか、両手、肩から肩甲骨周  
り、背筋、足腰の筋肉の張りを感じ取りながら、  
とにかく的に向かって真っ直ぐ伸びる。  
甲高く響いた弦音の後、放った矢は吸い込まれる  
ように的へ。

乙矢は12時方向細黒のあたりに入りました。  
「よし!」と叫びそうになるのを堪えて残心。  
でも、審査員の先生方には心の動きはバレバレだ  
ったかもしれませんね。  
カリカリと筆記音だけが響く中、ゆっくりと弓倒  
しして退場へ。

審査席が気になってつい視線を向けてしまいそう  
になるのを堪えて退場。

揖の合間にちらっと視界に入った審査員のうち、  
一人がじっとこちらを見つめていました。うっかり  
視線上げなくてよかった・・・

退場を終えても控えに入って数歩気を抜かず進ん  
で、審査は終わりました。

甲矢の失敗をカバーできたのかは分かりませんが、  
今の自分のできる精一杯の射を乙矢に込めること  
ができたと思います。

悶々と待つこと数日、発表された結果の中に自分  
の名前を見つけて心の中でガッツポーズ。



段位が上がるごとに求められるレベルが飛躍的に上がっていくのを感じます。  
四段のハードルは今の自分には非常に高く、生半可に挑んでも門前払いでしょう。  
審査前に射会に出たのは失敗かな？と思いました。射をすぐに切り替えられるほど器用ではないので目標は絞ったほうが良いのでしょうか。  
まずは、合格祝いのタイミングで届いた竹弓で弓の取り扱いの勉強です。  
会の無さ、弓手の押しの弱さ、問題は山積みで四段はまだまだ先になりそうですが、地道に取り組んで行こうと思います。

目指せ三十三間堂大的全国大会！

追伸：参段合格の後、道場に居合わせたメンバーでやったお披露目(?)の方が審査より遥かに緊張しました。

## ツル／ゲン

山川 元

この度無事、参段をいただくことができました。ご指導いただきました諸先生・先輩方、誠にありがとうございます。

土・日・祝日のみ修練している私ですが、年に2～3本ほど弦を切ります。手持ちがなくなると仕事帰りにアサヒ弓具店や小山弓具店に寄るのですが、その際に弦を「ツル」と呼ぶべきか「ゲン」と呼ぶべきか、結構悩んでいました。

なんだかんだとどっちでも通じてしまうようで「前はなんて言ったっけ？」と毎度同じ疑問を持ってしまう次第。

何度目かの時、これではイカンということでグーグル先生に訊いてみましたところ、洋物（アーチェリーやバイオリンの弓）は音読みでゲン、和物は訓読みでツルだそうです。

また和弓の弦の場合、弓弦（ユヅル）とも呼ぶそう。

なるほど。

ユヅルと言えば世界に名を馳せるHANYUです、4回転です、覚えました。

これでお店で何と言えがいいか迷うこともなくなります。

そんなこんなで先日、手持ちの弦がなくなったの

で、お店へ買いに行きました。

「何をお探しですか？」

「えっと、4回転」

「??」

「??」

問題は読み方ではなかったようです。

これからもよろしくお願い申し上げます。

## 三段審査

山下聡子

日高市での地方審査にて三段認許を頂くことができました。

日頃からご指導いただいている先生方をはじめ、先輩方、弓友のみな様のおかげです。

とても恵まれた環境で日々練習できることに感謝の気持ちでいっぱいです。

ありがとうございます。

審査前日まで何度も繰り返し座射の練習をすることができました。

審査当日は縦線に集中して、大きな射を意識しました。

会場へ入ると同時に心臓が飛び出すかと思うほど緊張してしまい、甲矢乙矢共に掃き矢になってしまいました。

落ち込みましたがまだ審査が終わっていないのでせめて体配だけはと思い、最後まで丁寧に行いました。

今回合格できたことに感謝し、次の審査に向けて精進を重ねていきたいと思っております。

皆様、今後ともよろしくお願い致します。

## 新天地にて

星川快枝

令和4年6月、県立武道館の審査にて三段を頂くことができました。

偏に指導部の先生方をはじめ諸先輩方、所弓連の弓友の皆様のお蔭と感謝しております。

弓道との初めての出会いは平成31年3月でした。当時住んでいた長野県飯田市の広報誌で初心者教室の募集があり、高校生の頃から憧れのあった弓道、右も左もわからずもちろん弓や矢にも触れたことがなかったのですが、年齢的なこともありこれが最後のチャンスだと感じ応募しました。そこでやはり先生方に手取り足取り教えていただいていた令和元年11月に初段を許されました。その後、令和2年初旬に所沢に引っ越してきたのです。

が、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況下で、新参加者がどのようにして弓道ができるのかわからなかったのですが、令和3年5月やっと所弓連のホームページで初心者教室の案内を見つけ応募しました。ところが、残念なことにコロナ禍が長引き教室が延期になってしまいました。しかし、土井先生からご連絡をいただき経験者ということで教室からではなく所弓連へ入会して先生の指導を受ける方法もあると伺い、意気盛んに入会して通い始めたのですが、それも束の間、挨拶からして違い（飯田の弓道場は神棚に拝礼）何をどのようにしたらよいのか全くわからず、また短期間でしたが父の介護とも重なり段々と足が遠のいてしまいました。

弓道の練習に行きたいけど…行けない、情けないと悶々としていたところに、再度、土井先生から令和3年11月からの初心者教室の案内をいただき、待ってました！とばかりに入会させていただきました。

教室で出会った様々な年齢や職業・経験をもった皆様と同期として、切磋琢磨しながら今とても楽しく弓道をさせてもらっています。今回式段審査を受けることができたのは、いつも明るく朗らかに語り、励ましあえる同期達の存在があったからといっても過言ではありません。私一人で行ける時だけ練習に行ってしまうスタンスでは到底受けることさえできなかったと思っています。いつでも気軽に声をかけてくださる人がいる、そして練習に行くよ！と誘ってくださる人がいるということは本当に有難いことです。

新天地で不安もたくさんありましたが、先生方、諸先輩方そしてかけがえのない弓友達とのご縁を大切にこれからも精進して参りたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## 昇段審査をうけて

橋本夕夏

この度、県立武道館での審査にて初段の認許を頂くことができました

日々の練習の中で細やかにご指導くださる平山先生、小林先生、諸先生方に心より感謝いたします。

今回審査を受けるにあたり、平日の練習に加え審査を受ける同期たちと道場をお借りし先生方のお時間を頂戴して体配の練習を積み重ねました。時間を合わせて頂いた先生方、練習に付き合ってくれた仲間たちに改めてお礼を伝えたいと思います。

いよいよ、審査当日

久々に感じる緊張に、どっちが乙矢？甲矢？右足から？左足から？と一人オロオロしている間に入場係からの声がかかりいよいよ入場

しかも落ちの立ち位置までの歩数が合わずダメ押しのプチパニック(汗)

あれほど『歩数が違うからね！』とご指導頂いていたのに全く活かせませんでした。

審査を終えご指導頂いていた所がきちんと出来ていたか思い返してみましたが……

緊張していたためか全く思い出すことができませんでした。改めて日々の練習の積み重ねが大切なことを感じました。

頭で考えて動くのではなく体に染み込ませ自然と動くようになるまで練習することの大切さを感じました。

当日自分の体配を全く覚えていないがため、合否が分かるまで落ち着かない日々を過ごすこととなってしまいましたが合格の連絡を頂いたときはホッとしました。

しばらくはあの緊張は味わいたくないという思いと、もう少し高みを目指してみたいという思いの間にいる心境ですが、今後も先生方のご指導の元、日々の練習に励みたいと思っております。今後とも温かいご指導ご鞭撻宜しく願いいたします。

## 初段合格とこれまでを振り返って

中村勝俊

今回、埼玉県地方審査で初段に合格することが出来ました。昨秋以来、弓道教室とフォローアップで平山先生、奥富先生、小林先生、他指導部の方々には大変お世話になりました。何度も何度も繰り返すミス、不備の指摘に非常に忍耐強くご教示して頂き、誠に感謝に耐えません。

逆の立場で現役時代なら、“何回目だっけ”などと皮肉の一つも言っていたと思います。先生たちは何と忍耐強いのだろう、私とは違うな、と本当に感心していました。

未だに弓道はどこまで出来ているのか自分でも全く把握できていません。入場～射法八節～退場、形だけは最低限それらしくなっているだろうとの事で初段は通してもらえたのかな、と思っています。まだまだ納得できるものはどこにもない状態です。

審査結果に対しても、”一番心配していたんだよ～～！”と言われる状態でしたし、最近も、喋のさし方に問題を指摘され、”初段、返上しようか!?”と言われていた位です。それにもめげず、自分の頭で理解できるように、腑に落ちる理解が出来るように、そして、それを体現出来る様に少しずつ見直ししています。

始めてからそろそろ10か月目になりますが、私の変遷をいくつか書かせていただきます。

昨年早春、清瀬図書館脇に”弓道教室、初心者歓迎”の張り紙を見つけて清瀬市民センターで手取り足取り1～2時間、巻藁で2～3本射たのが、初めての体験でした。

”正射必中”なる言葉を初めて知り、型を守ればの中させることが出来る、との説明に”本当かな?なぜ?”とっていました。

正射必中、人間機械論みたいだけど、再現性を人間がどこまでできるものか・・・、少し面白そうだな!

弓道を始めるには清瀬ではNGで、射場を持たない清瀬には羨ましい限りの立派な弓道場が所沢市にはある事を改めて教えてもらい、更に、所沢市弓道連盟が春の初心者教室の募集を近く始めるとの情報を新家先生にも確認して頂き、タイミング良く初心者教室に申し込み出来ました。さほど、弓道界には無縁でした。

清瀬の本間先生はわたしと弓道との縁を作ってくれ、”正射必中”の宿題を投げかけてくれた先生でした。

新型コロナは弓道教室にも春の開始予定を晩秋の11月スタートへと大きく遅延させました。足踏み、胴づくり、弓構え・・・最初は全くの言語障害で、チンプンカンプンでした。

春になり、新しく購入した喋で練習を始めた時、教室で借用していたものとは明らかに異なる引っ掛かりを離れの時に感じる事がありました。その時、練習に来られていた下田先生からは弦溝のザラザラ状態は”自然の離れには関係ない”、とのお話には非常に驚きました。これは未だに理解できていません。

同時に、馬手の手の内の話を聞き、取り喋から離れまでの手の内のメカニズムらしき話が聞けて、目が覚めました。殆ど理解は出来なかったのですが、素直に真直ぐに矢を飛ばす為には非常に重要

なポイントであろう事は理解できました。手元の1mmズレは矢所で約3cmずれるわけで、ズレは6mm以下に収めないとの中しない事を考えると、狙い通りの矢筋を確保する為にも離れはそれを乱さない様に無理なくスルッと離れなければならない、弦仕掛け、弦溝は効果的である必要があり、手の内によってそれは実現される、と一連の流れが何となくつながったように感じた、初めて腑に落ちた一瞬だったのを覚えています。弓手と共に、馬手の手の内も非常に重要そうだと改めて理解した次第です。(当然、頭だけのアハ!です。)

弓手の手の内は、最近まで理解できない世界でした。角見、抱卵、弓返り、特に弓構えの手の内から大三までの遷移、これらが細切れ知識としてはあるものの具体的にどの様に繋がるのかが理解できておらず、いつも不安定な状態でした。

渡邊先生の説明は大変明解で、全体が非常にスマートで無駄のない動きができるものでした。道場に掲げられている手の内の図解にて説明して頂きましたが、今までの無理解を恥じ入る思いでした。そして、全体の流れに無理が無く、弓返りも自然に出来る、との説明に初めて得心しました。(これも当然、頭だけのアハです!)

こんな具合で、まだまだ断片的にしか理解できておらず、技術的にも10キロの弓が十分引ききれず苦戦している状況です。まずは、早々にこのトンネルを抜け出す事が最初の目標です。これからも、先生、先輩方のご教示ご鞭撻を是非ともよろしくお願い致します。

## 初段取得報告

中田昌吾

この度初段を取得致しました。これもひとえに多くの先生方より多大なご指導ご鞭撻を頂いた成果と考えております。

本番では初めての審査ということもあり、とても緊張しましたが自分が学んだ射を審査員の方々に見ていただくという気持ちで挑み、落ち着いて学んだ通りの体配をとることができました。

いざ射込む段階では、緊張のため会をもって間に震えが生じ、早めに離してしまったため2本共3時方向に外れてしまったことが心残り

す。普段通りの射ができるよう、次回の審査に備えて会場の緊張感を意識しながら練習に打ち込む所存です。

今回の審査は私の弓道鍛錬のため、非常に有意義なものとなりました。今後も日々自己を律しながら打ち込んで参ります。

## (特別寄稿)

### 演武を神様に見て貰う

坂川隆人

最近思ったことについて、紙面を拝借して整理してみました。ご意見ご感想をお待ちします。

#### 1 「演武」について

道場での稽古中、審査が近づくと「並んでやりましょう。」という声がかかることがあります。そして、“数人一組による体配と射”が行われるのですが、このことを一体何と呼べばよいのだろうか、とずっと疑問に思っていました。

上の呼びかけは、言い換えると「今から『〇〇』を行います。」ということなのですが、〇〇に入る言葉(名詞)は何かということなのです。

私は、以下のことから「演武」という言葉が入る、と考えるのですが皆さんはいかがでしょう。

弓道教本には「演武とは・・・」という明確な定義や説明文はありません。そして、定義のないまま「演武」という言葉が、教本では2ヶ所で使われています。ここから「演武」について考えてみます。

1ヶ所目は、p168「演武の場合の動作」という項で、個々の動作についての説明がされています。

同頁の3行目には「演武または競技の場合、…云々。」という記述があり、演武と競技は対置的な存在であることが、まず、大雑把にわかります。

では、その演武とはどのようなものかという、7行目に「演武等の場合、射礼を基本とした応用動作であって、・・・」と書かれており、「演武と競技」は、「射礼」の動作を元にして構成された応用的なものである、ということがわかります。(「射礼」については定義があります。(注1))

教本では続けて、一連の動作が、写真付きで説明されておりまして、ここを読むと、道場で稽古の時に私たちが「並んでやっている」まさにそのことが「演武」であることがわかります。そればかりではなく、審査の際に受験者が行っているものも、実は「演武」である、ということがわかります。ちなみに、審査においては「射を含む演武」が採点され、合否が判定されるわけです。

以上のことから、やや蛇足になりますが、私たちが行っている弓道の活動の全体は、大まかに次の3つの領域に区分できると思います。私たちは道場等において、必ずこの内のどこかの領域で活動をしています。「演武」は、この中で(2)のような位置づけとなります。

#### (1) 公的な色彩の強い「射礼」という領域

祭祀・式典等で礼法に従って行われるものです。

#### (2) 半ば公的な「演武または競技」という領域

- ・「演武」は射礼を元にした応用的なものです。
- ・「競技」は「演武(あるいは射礼)」を基本として、いくつかのパターンがあります。(注2)

#### (3) 私的な個人の「練習」という領域

的前、巻藁、ゴム弓等で行う、射法射技の研修及び体配の修練がこれに相当し、私たちの弓道の活動の大半はこれに充てられています。

2ヶ所目に「演武」という言葉が出てくるのは p87「基本の動作」の項で、「揖」の意義が記述された箇所です。ここには、「本座における最初の揖は『只今から演武させていただきます』と感謝の気持ちをもって行う・・・」と書かれています。つまり、本座が設けられて行われる弓射は「演武」である、ということを行っているわけです。(射礼も、一連の動作・手順に着目すれば、式服着用や礼法を重視した演武である、という把握の仕方でも可能かもしれません。)

以上のことから、「並んでやっている」あれは、まさに「演武」である、と言えます。

次に、上で言う本座における揖の「只今から演武させていただきます」とは誰に対する語りかけなのか、ということについて考えてみたいと思います。

#### 2 演武を神様に見て貰う

「演武」という言葉には、武道修練の成果を披露すること、という意味があります。(注3) 披露するのですから、見て貰う相手が必要で

す。では、「誰に」見て貰うのでしょうか。

通念的には、「演武」は、

- (1) 所沢市武道祭などのような武道のイベントで、(高段者等が) 一般の観客などに、
- (2) 審査会等で、特別演武(注4)として、(称号者等が) 受験者や一般の観客などに、
- (3) 審査で、(受験者が) 審査員に、

という風に、傍線部の人達に対して(修練の成果等を)見て貰うものである、と言えそうです。

では、道場で行っている、稽古を始める時の最初の立ち、あるいは冒頭のような稽古の時に行われる演武は「誰に」見て貰うのでしょうか。

道場での稽古の場面ですから、観客も審査員もおりません。これをどう考えたらよいのでしょうか。結論から先に言うと、私は、道場等の神様に見て貰うのだと思います。

すこし飛躍するかもしれませんが、本来、演武は神様に披露するものであって、上の(1)(2)(3)の場合も、外見上は観客や審査員に披露している形になっていますが、実は、演じている射手はあくまで神様に対して演武を行っているのだ、と考えるとうまく整理がつくように私は思います。

武道とりわけ弓道は、神事に極めて近い存在です。思いつく限りでも、鳴弦の儀、流鏑馬神事、草鹿神事、卑近なところで破魔弓、破魔矢等々の言葉が思い浮かびます。また、日本各地の神社では、弓矢にまつわる神事が数多くかつ連綿として行われていることから、それがわかります。

弓道は、中てることや昇段することが目的ではなく、それと同等かそれ以上に、至誠とか礼節といった精神的側面を重視すべきである、ということが弓道教本でも大きなテーマとして語られています。このことから、演武を神様に見て貰う、という姿勢は弓道のこの精神に大いにかなっているように私は思います。

3 私の提案は、次の2点です。

- (1) 稽古に際し、「並んでやりましょう」ではなく「今から演武を行います。やる方は準備をしてください。」と言うのが良いのではないか、と思います。なお、「演武の練習を行います」という言い方もあり得ますが、ここはやはり練習ではなく、「この時点までに修得した射技・体配の成果を、この一回の真剣な演武によって神様に見て頂く。」の気構えを持つことが大切だと思いますから、「練習」は付けるべきでないと思います。

- (2) -(2) 演武は神様に見て貰うものですから、そのためには、その象徴的なものとして神棚の設置が必須です。道場内の雰囲気も、会員の気持ちも大きく変わると思います。蛇足ながら、設置に関する法的問題はありません。

以上、なんだか神がかりな話に聞こえるかもしれませんが、私は決してそういう宗教筋の人では、ありません。初詣を始めとして普通に神社にお参りをし、普通に神様に接している普通のおじさんですので、この点お間違いのないようお願い致します。ただし、トイレの神様とお天道様の存在は子供の頃からしっかりと信じています。

(注1) 教本(p128)に「射礼は昔から祭祀・式典その他晴れの場所において、その時代の式服を着用し、起居進退を礼法に従って射を行うものである。」と定義されています。細部は教本を参照。

(注2) 全弓連「弓道競技規則 別紙15条①」

(注3) 「演武」は辞書によると、  
 武術を人前で演じて見せること。武道・武術において学んだ形を披露すること。(岩波国語辞典ほか)  
 とあります。平たく言えば「武道で修得したものを誰かに見て貰うこと」であるといつてよいでしょう。

(注4) 「特別演武」と銘打っているのは、受験者が「(普通の)演武」を行うから、という認識によるものと思われます。(youtubeで「特別演武」を検索してみてください。)

## ∞ 会長月誌 (抄) ∞

### 【5月】

- 8日 月例射会参加  
 月例射会終了後、故岩村優子さんの弓具抽選会を行う
- 21日 第28回新道場建設委員会  
 NPO 法人所沢市弓道連盟理事会
- 28日 令和4年度弓道教室②参加
- 29日 第29回新道場建設委員会  
 臨時部長会・常任委員会
- 30日 埼玉県西部地域振興センターへ特定非営利活動法人の事業報告等の書類を届ける

### 【6月】

- 4日 令和4年度弓道教室③手伝い

第30回新道場建設委員会

NPO 法人所沢市弓道連盟第2回理事会

- 14日 所沢市スポーツ協会評議委員会
- 18日 令和4年度弓道教室⑤手伝い
- 19日 NPO 法人所沢市弓道連盟臨時総会
- 第31回新道場建設委員会
- 25日 令和4年度弓道教室⑥手伝い
- 26日 シンコースポーツ後援射会  
青少年非行被害防止強調月間街頭啓発  
キャンペーン参加者をこども未来部青少年  
課へ連絡 (FAX)
- 22日 新道場について市との打ち合わせ

【7月】

- 3日 第32回新道場建設委員会
- 8日 第1回新道場運用検討委員会
- 16日 新道場建設について近隣 (北中自治会長、  
畑所有者、近隣住宅8軒)にあいさつ  
(小金井設計、嶺事務局長、石川にて)
- 22日 第33回所沢シティマラソン大会  
第1回実行委員会
- 30日 第33回新道場建設委員会
- 31日 新道場運用検討委員会

【8月】

- 7日 月例射会  
第2回部長会
- 8日 市と土地賃貸借契約書締結  
小金井設計と民間建設工事請負書締結
- 13日 第2回常任委員会
- 16日 請負工事費1回目・設計料を小金井設計  
に支払い  
所沢市スポーツ協会70周年事業準備委員  
会出席
- 17日 武道館弓道場個人利用につきシンコー  
スポーツへ要望を伝える
- 21日 新道場建設についての報告会
- 25日 ところでんき太陽光発電の案内を市役所  
より受領

【9月】

- 1日 令和4年度第61回青少年三道大会打合せ
- 6日 シンコースポーツとの話し合い  
(個人利用に関する連盟からの要望に対  
する回答)
- 7日 所沢シティマラソン大会実行委員会  
第1回競技・記録部会
- 8日 小金井設計と太陽光発電に関する打合せ
- 27日 新道場開設委員会(旧:新道場運用検討  
委員会)
- 29日 新道場開設委員会 建設グループ打合せ  
(小金井設計と)

【10月】

- 1日 臨時部長会
- 23日 月例射会
- 24日 所沢シティマラソン実行委員会  
(第2回競技・記録部会)
- 25日 弓道教室(②～⑥参加)

∞ 編集後記 ∞

一時収まりかけたかに見えた新型コロナがまた勢いを増し、第8波に入って来たような状況で困ったものです。

これまでも数々の行事が中止や厳しい制限を強いられ、日々の練習もままならない中、5月以降多くの会員の皆さまが昇段され、その喜びや弓道に対する熱い思いなどを寄せて頂き、また今回特別寄稿も頂くなど、本号がこれまでも増して充実した誌面となりました事に厚く感謝申し上げます。

また永年の懸案、希望であった新道場の建設も順調に進み、来年1月末に竣工の予定とのことは喜ばしい限りです。

思えば故春田先生よりご厚志を頂き9年前より推進してきた神社道場建替えの話が、土地貸借の問題から難航し、2015年に44年間慣れ親しんできた神社道場が閉鎖になって以来、新道場の建設候補地探しから市当局への働きかけなどさまざま苦心を重ねて参りました。

今般ようやく市の理解も得て建設実現の運びとなった次第ですが、これまで関わられて来られた皆さま、また現在建設関係に携わられておられる多くの方々のご尽力に感謝と敬意を表したいと思っております。完成後もその運営にいろいろ大変なことがあると思っておりますが、NPO 法人所沢市弓道連盟の発展のため、今後とも連盟会員全員の協力により乗り切って参りましょう。(飯島記)

所沢市弓道連盟会報誌 所弓便 第28号

編集委員 飯島稔凱 細川 博  
沖田純子 北澤明子

発行日 令和4年11月30日

発行者 NPO 法人所沢市弓道連盟  
会長 石川淳子